



甲佐町議会だより

清流

第**97**号

平成13年7月19日



庁舎建設

特別委員会を設置

浅井ニュータウン計画に支援

基本構想は作文にすぎない

中・高一貫教育を聞く

町村合併を聞く

一般質問

3人

6P

3P

2P

町の元気は、人の元気から。
産業の後継者を紹介します。
西坂夕子さんは、平成10から、理容業に就業。

6月議会でこんなことが決まりました



6月議会は、6月8日に召集され召集当日と11日、12日の、3日間の実質審議が行われました。

一般質問は12日に行われ、その内容は後のページに紹介していただきますのでご覧下さい。

今期町長が提出した議案は24件。内訳は、条例の制定・改正が7件、補正予算案が4件、その他が13件で、これらは、審議の結果、全部の議案が可決となりました。

庁舎建設に向けた調査を開始

基金は7億円到達の判断を受けて

議会に 建設特別委員会を設置

築後40年を経過している今の役場庁舎の建替えは、議会でもう10年近く前から論議され続けて来ました。老朽化に加え、最近では特に、機能性や広さについての支障が問われています。いくつかの担当課が町道を隔てた別棟に配置され、用件で訪れた方々があっちはこっちに歩かされるという問題も、議会で取り上げられた経緯もありました。

こうした実情を踏まえて、町側には以前から建替え時期を模索した様子がありますが、資金面に問題がありました。

しかし「清流96号」でも紹介している通り、建設基金は7億円の大台を13年度中に達成できると町側では判断するようになっていました。

こうした状況を受けて、6月12日、議会は「庁舎建設調査特別委員会の設置」の議案を議員提案で提出。裁決では満場一致で議決しました。同時にその後、構成員も決まりましたので、庁舎の基本的な問題の調査がこれから始まります。

役場庁舎建築基金条例 役場庁舎の建築費用の積立金を目的に、昭和60年に制定され、毎年度1000万円以上を積立てることを定めた条例。

庁舎建設調査特別委員会の構成メンバー（5人）

- (委員長) 奥名 克美
- (副・委員長) 北畑 常博
- (委員) 岩村 辰雄
- (委員) 北林 誠楠
- (委員) 高木 英吉

積立金の経緯と現在高

積み立ての時期	金額 (原資+利息)
昭和60年度	100,000千円
昭和61年度～平成2年度	88,299千円
平成3年度～平成7年度	333,812千円
平成8年度～平成12年度	133,044千円
合計	655,155千円

解説

住宅地開発計画に支援

町道・作替内田線を計画地内に通す

民間で117戸の宅地開発を目指す「浅井ニュータウン（仮称）」計画への町の支援策を盛り込んだ町長の提案を6月12日、議会は審議しました。

支援策は、①計画地内を通り抜けて最終的には国道に接続する道路を「町道」と認定するために、これまでの町道「作替内田線」の起・終点を変更すること、同時に、計画の後背地一帯の開発が将来必要になるとの見通しを立てて、計画地内に町有道路の整備も必要という関連議案。

その②は、道路改良工事費・用地買収費等を盛り込んだ「補正予算案」。

議会は、一つの117戸の集落形成に匹敵し、人口が増加することは町の活性化につながるという町長の提案理由を理解して、賛成多数でいずれもこれを、可決しました。

プレー開始目前



安津橋の
G・ゴルフ場

6月11日。安津橋のグラウンド・ゴルフ場の利用開始に向けた条例案を議会は審議し、提案どおり可決しました。

審議の中で明らかになった情報は、次の通りでしたので、紹介します。

利用開始は9月からで、利用料金は300円。プレーのために道具を借りる場合は、別に100円が必要などということは、本紙・前号の情報の通りです。

利用料金では、教育委員会と、町の体育協会と町のグラウンド・ゴルフ協会の主催ゲームの場合は無料扱い。

将来にわたる考えでは、4コースに拡大する考えがあることを町は示唆。

コースなどの維持・管理に経費がかさむが、管理の相手方にはシルバー人材センターを視野に入れているとのこと。

維持・管理に必要な経費と利用料収益、さらには毎年かさむ経費の差などの細かな計算は、まだ成り立っていないこと、など。

117戸の宅地開発

町の活性化・人口増につながる

これだけは 聞いておきたい

論 点

Q & A

6月議会での審議の内容を要約
してお知らせします。



消防団活動の課題

Q

消防団員の日常活動に、まったく参加しない団員がおり、これは消防団活動に支障があると聞くが、どうか。

A

規則を含め、十分検討する。

学校での大阪事件

Q

大阪の小学校での痛ましい事件があったが、本町はどう感じているか。

A

子どもの安全を守るために、今後研究を続けたい。

町営バスの乗車料金

Q

全区間一律200円になったが、龍野経由で宮内に行く場合は、役場前がいったん終点で、再び役場前から乗車扱いとなり、料金が400円になる。乗り換え扱いを改善できないか。

A

研究したい。

臨時職員などの公募

Q

役場の、臨時・非常勤職員は、町民に公開して採用すべきではないか。

A

今後の問題として、公募を検討したい。



その構想と内容

Q 浅井ニュータウンという民間による宅地開発計画があり、町道を新設するというが、その構想と内容は？

A 昨年10月に、町内の開発会社から町に対し、住宅地造成の事前協議の申請があった。町として住宅マスタープランを進めているので当該地は、住宅地として

適当であり、周辺町道の廃止、認定を通して新たに町道を設置することにした。

過疎化の解消になるか

Q

人口が増加したから町が活性化するという理論はいかなるものか。過疎化の原因を究明しないで、ただ人口を増やせばよいというのでは問題の解決には至らないと思うが、どうか？

財源と投資効果

Q

限られた財源の中で用地費や工事費を投入するわけだが、その財源はどこに求めるのか。また支援の規模

A は適当か？

A 財源については、関係各課で協議した。起債は、交付税の見返りの多い有利な起債を考えて、県に対して過疎債で対応してもらおうという要望をしている。

浅井ニュータウン計画関連

五色山との違い

Q

以前に、乙女校区の五色山を第三セクターで開発する構想があったと思うが、それは今まで凍結の状態にあり、そのような中で、今度の計画は慎重に進めるべきではないか？

A

今回は民間主導による117戸の分譲計画であり、完成すれば町の人口増や経

過去に例があるか

Q

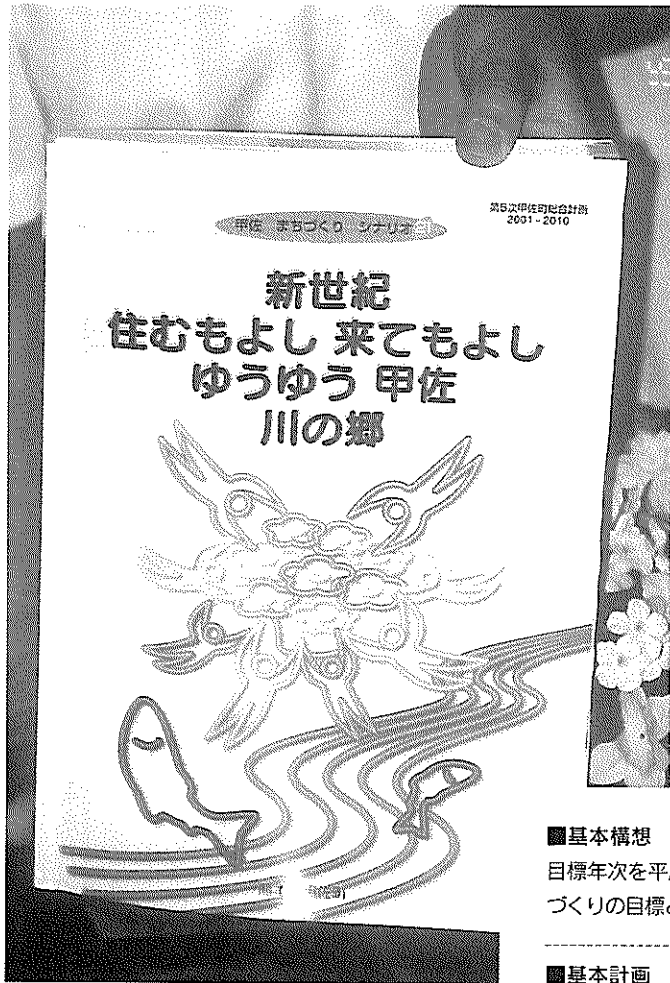
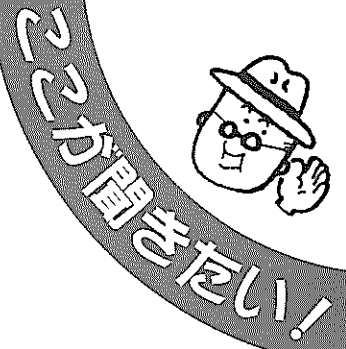
過去において、民間企業の住宅開発に対して、町から道路新設の支援をした経緯や実績は、あったのか。

A

星の川団地の際には道路に支援したし、旧酒六跡地の場合と清正公山の下の場合にも、道路等の支援を行った過去の実績がある。

こうした試算から、順調に3年ほどで117戸の住宅が完売になれば、町の投資は採算が見込める状況にある。

また、仮に半数の50戸ができたとしても、それは一集落が出来上がるようなものであるから、それに町道を引くことも良くはないかと考える。ひとつの集落への投資と考えてもらいたい。



佐藤義郎議員

基本構想は具体性を欠き

抽象的な作文にすぎない

■基本構想

目標年次を平成22年とする、これからのまちづくりの目標と基本的な方針を示す。

■基本計画

計画期間は5年間（平成13年度～平成17年度）。これからのまちづくりの主要施策を示すものです。

■実施計画

計画期間は3年間。事業実施のための基本計画。毎年進捗状況に応じ見直しを行います。

このページは、一般質問の紹介です。

佐藤議員

町は、地方自治法第2条

4項に基づいて総合的、計画的な行政運営の基本指針として、本年、基本構想を策定した。

しかしこの中身を見てみると、農業問題一つ取ってみても理念や方針は、色々と結構なことが書かれているが、今までの政策に対して何ら反省もなく、具体的にどうするかというものがない。

この基本構想は、ビジョンばかりであって、具体性に欠け、抽象的な作文にすぎない。

町長

基本構想というのは、あくまでもあるべき姿であり、本年度から10カ年のあるべき姿を総論として描いた。基本構想を策定する際に

は、住民代表26人、職員12人合計38人の方々、総合計策策定委員会のメンバーになっていただいた。

基本構想を基にして基本計画、実施計画へと細分化され、議会において十分に討議していただき、具体化していく。

佐藤議員

あるべき姿そのものを議会の場において十分論議する必要があり、また基本構想に基づいて、基本計画、実施計画が実行されているか、十分に反映されているか、議論すべきだ。

助役

基本構想は、総合計画策定委員会策定し、企画審議会（議長、副議長、各常任委員長、区長、代表区長、各種団体の長で構成）において審議されたものである。その上で9月議会において、構想基本計画を審議し、議決いただいた。

しかし、策定段階において議会の検討会を設ける点については、考えてみる。

中高一貫教育をどう考える

北畑常博議員

北畑議員
今後、国県ともに財源不足の時代を迎え合併問題に最終的に入っていくと思わ

れるが、合併するにしろ町づくりを進めるにしろ教育の基本的考えは重要である。何とか他県に負けないような施策を感じて、中高一貫教育を提言してきたが答えは出ていない。中学校にし

ても、「窓は閉まらない、雨漏りはする」ような状況にあるし大規模改修の時期に来ているような中で白旗の体育館や庁舎建設時期と重なってしまう状況である。計画性も必要と考えるがこのような点での町長の考え方を聞きたい。

町長

中高一貫教育については

関心を持ち、本町の教育長、県の教育長、高校の教育課長とも話をしてきたが、本町にある甲佐高校については県も全く考えてなく、対応も未定で、現状では無理との判断をしている。また指摘のとおり少子化が進んでいる現状から、今後は学校の統廃合の問題も聞こえてくるし、今後の教育施設

商工会への助成に 対する町の考えは？

北畑議員

町は農家や商工会といつも力を合わせて結束してやっていたかなくてはならないと思っている。町のメインである大井手川にしてもあれだけの資本をかけて整備がなされ、道路網の整備にしても商工会の力も必要だし、また会に対する援助も必要と考える。現在必要とされる助成金について町長の考えを聞きたい。

町長

商工会館建設については、本年度の商工会の総会において会館建設の決議がなされ、それを受け商工会から町へ補助金の要望書が提出されたわけだが国県の補助額が本体工事の半額を算定されており町としても補助額を算定した後、臨時議会を開催し決定したい。

環境問題の解決には 下水道整備が重要!!

北畑議員

町長

甲佐町は環境汚染等により昔の緑川の状態とは異なっているのが現状であり、その問題の解決策として下水道の整備の必要性を感じる。現在町が進めている小型合併浄化槽では多量の薬剤を投入しないと細菌が削減しないし、アンモニアやリンの成分は除去できないので河川の浄化にはつながらないと思う。緑川のどの地域でどこが汚染されてどいう影響を与えているかを調査するには多額の経費を要すると聞くが、それをやることによって、ひいては国県の補助をうけた下水道設備を設置することにつながると思うが、今後の環境問題と併せた町の下水道計画について聞きたい。

環境問題は今後大変重要な問題だと認識している。現在、小型合併浄化槽を積極的に進めているが最近、集合型の合併浄化槽の制度が出来たので担当課に研究を指示している。公共下水道については、以前計画したが、町内全域を公共下水道では制度上整備は出来ないで、農業集落排水も含めての計画であった。概算の試算でも200億の金額がかかるし、加入率の問題も伴う。そうなった場合、財政計画がなりたはず他の事業はストップせざるをえない状況になるという事から今、極力小型合併浄化槽を進めている。

町村合併

自主的判断が必要だ

田上益男議員

田上議員

国は平成17年に町村合併を実現したいと言っている。聞くところによると、上益城郡を一つの町村にする案と、平坦部を一つ、矢部・清和を一つとする案、それに低用、中央、甲佐、郡を越えた合併の話もあるようだ。いずれにしても、住民の意志・住民主導で町民が決めることと思うが、どんな状況になっているか。

町長

国の特例法で17年まで合併すると、財政支援をすると言っている。県は市町村合併推進要項を策定して、合併を推進すると言っている。

4月26日、郡内の町村長、議長で、市町村合併推進協議会を設立する会議が開かれたが、時期尚早というところで、町村合併検討会議に変更された。

町村合併はあくまで、自

要と思う。

庁舎建設と 基金の活用を聞く

田上議員

町村合併がさけられないとすれば、庁舎は必要ないという意見もあるが、例えば、例え合併しても、町民が集う場所が必要と思うが町長の見解を！

町長

どういう形で合併するとしても、合併すれば、住民から遠くなるので、地域づくりの拠点、住民サービスの拠点として庁舎は絶対必要と思う。

田上議員

先の質問と関連するが、もし合併するようなことになれば、庁舎として造るよりも、多目的に利用出来るものにする必要があると思う。

そこで庁舎建築として積立てている基金を、他に流用することは出来るか。

町長

現在の条例では出来ない。

田上議員

現在本町には、町民が集う学習の場とか、公民館活動や文化活動や他の研修室が不足している。図書館も美術館もない。多目的な機能を持ったホールが必要だ。そこで庁舎建設基金を上手に運用出来ないか。芦北町の行政視察だったと思うが、佐敷城が復元されていた。お城ドームという名称で多目的ホールが建設され、講演会、音楽会などに活用されている。椅子を出し入れすることで、バレーや卓球、バドミントンも出来る。こんな施設を作るのに、先の基金を上手に運用することを考えてはどうか。

町長

言われるような施設が必要と思うので研究したいと思う。基金は沢山はないの

庁舎建設委員会には 各界代表を入れて

田上議員

庁舎建設には助役を中心に、利便性・安全性・機能性について研究されているようだが、町内の各界代表も入れて、検討した方がいいと思うが、どうか。

町長

検討委員会は助役を座長に検討しているが、住民や議会、各界代表を含めて検討するのがいいと思う。

このページは、一般質問の紹介です。

で、別途考える必要があると思う。

学校の安全管理を聞く

田上議員

開かれた学校教育が進められている中で、大阪の学校で、10数人が殺傷されるという事件がおきた。

学校安全管理についてどういう対応をするのか、町長の考えを聞きたい。

町長

御指摘のように学・社組合ということで、開かれた教育が進められているなかで、大変痛ましい事件が発生し、学校の安全対策を考えねばならないが、これらの課題です。地域ぐるみで子どもの環境を見守って戴くことが大切と思う。

学校課長

6月8日事件が発生して、本町の教育委員会としては、学校長に安全対策については指導の徹底をお願いし、6月15日校長会を開いて、具体策を検討することになっている。



水泳授業も安全管理の一つ（白小プール）

傍聴者から一言

食改さんと呼ばれて

北早川

山本鏡子



あなたはどんな食生活を送っていますか？自分の食生活を見直したことがありますか？
私たち、食生活改善推進協議会の推進員は、「私たちの健康は私たちの手で」というスローガ

ンのもとに、正しい食生活・生活習慣を地域に広げていくことが役割であります。

甲佐町でも、糖尿病・高血圧・動脈硬化などの生活習慣病が、増加傾向にあります。その年齢も、低年齢化しつつあり、子どもたちからの食生活が重要な鍵を握っていると言っても過言ではありません。そこで、甲佐町では、「親と子の食生活共同体験事業」ということで、町内の小学校5校を対象に、「親と子のクッキング教室」が実施されています。協議会としましては、この教室を全面的に応援し、子どもたちからの食生活を中心とした健康づくりの普及に力を入れているところであります。この体験

を生かして親と子の食生活についての意識が少しでも高まり、家庭の食生活について話し合ったり、考えたりするいい機会になればと思います。このクッキングのお陰で、私は小学校で「食改さん」と声を掛けられる程になつて参りました。子どもたちが目を輝かせて、楽しそうに料理に取り組む姿勢は、私たちの唯一の喜びであります。これからも、「食改さん」の活動は、地味ではありますが、皆さんに問題を投げかけ、刺激を与えながら、健康づくりの案内役を務め、お世話していきます。今後は、健康と福祉の町づくりの一役を担って行きたいと考えています。



教育委員に溜渕誠也氏

6月12日は議会の最終日。町長は教育委員の選任同意を議会に求める議案を提出しました。
理由は、前任の緒方昭二委員（教育長）の後任を決めるもの。
町長が後任として提案したのは溜渕誠也氏。
その理由は、氏は昭和39年から教員として活躍。この間に、宇城教育事務所の指導主事、甲佐小学校の校

長などを歴任し、今年3月に御船中学校の校長を最後に退職された。こうした教育現場と教育行政での豊富な経験と見識の持ち主は、教育委員として適任であると説明。
議会は満場一致で町長の提案に同意しました。
早川。昭和15年生まれ。夫人の恭子さんとの2人暮らし。

大久保議員が辞職



病気治療のため

6月議会の初日。大久保勝三議員から、議員の辞職願いが提出されました。病気治療のため、6月末日で辞職したいというもの。
大久保議員の病気は、2年以上長引いていて、この間議会への出席も皆無だったことから、議会はやむなくこの辞職願いを受理と決定しました。

大久保議員には長い間お勤めご苦労様でした。
2期目の後半の2年間は副議長をこなされて、議会活動や運営に卓越した力量を発揮され、私どもはいぶん指導をいただきました。3期目の途中での辞職になりますが、病気治療に専念されて、出来るだけ早い社会復帰を願っています。

境議長の談話

建築が進む

農業研修センター

「甲佐町農業研修センター」が、旧・営林署跡地に、その様相を見せ始めました。

甲佐町農業研修センターの建築は、熊本県・上益城地域振興局が今年十月の完成を目指して建設しているもので、事業費はおよそ8830万円。

大研修室、会議室（和室）、調理実習室に加えて、3面ガラス張りのイベント広場がレイアウトされています。



甲佐町、御船町、益城町の3町の中山間地域では、それぞれ熊本県営で広域農道が工事中でやがて甲佐から益城までが貫通し、完成後は、優れた輸送機能を発揮します。

そうした農道の整備に併せて3町が農業の生産性や品質を向上させ、一方では新たな特産品を生み出して、これを3町が一体的に産地形成すると、もっと確かな農業経営が出来ると思われされます。

農業研修センターはこうした狙いから、農業の研修や会議を行ったり、特産品開発の研究をしたりするために熊本県が甲佐地域に造られる施設です。

完成後は、熊本県から甲佐町に譲渡・移管されますが、甲佐町では、管理の方法をどうするかは未定とのこと。

また、これまでの青空市場はこの建物に併設した場所に設ける方向で、耕地課と農政課が協議しています。

編集後記

過日、議会広報紙の先進地島根県佐田町を研修した。毎年、全国表彰を何らかの形で受賞されている広報紙とあって学ぶべきものが多々あった。しかしコンクールで表彰されるのが広報紙ばかりでない、ということも勉強した。なぜなら議会広報紙という使命を忘れてならないと感じたからである。

今六月議会中に常議では考えられない痛ましい事件が起きた。毎年子どもに対する重大事件が発生はしていたが、子ども等の聖域である場所でも多数の死傷者を出した大阪府太田市のことである。

新しい世紀を迎えた今、我々大人は、常識人は倫理にのっとり何をすべきか考えなければならぬ時期にきている。自分というものを飾るばかりでなく真実を見せることも必要である。そうした中「清流」はコンクール用でなく民のために、編集することを肝に命じ、今後も精進して行く。